戦後７０年 親子平和学習会

『最初の特攻・最後の特攻』

～歴史の事実から“戦争といのち”を考える～

未曾有の惨劇と悲劇を生んだ先の 15 年戦争。戦後 70 年経ったいま、私たちには決して忘れてはならないことがあります。それは、「お国のために」と人の命を軽んじて年端もいかぬ若者をはじめ多くの人々が死んでいった事実です。

特に、敗戦直前の約 10 か月間、“神風特別攻撃隊”としておよそ３千有余の若者が国の誤った政策によって戦火の只中に散っていきました。その最初に出撃した特攻隊と最後に飛び立った特攻隊の中に、高知県の青年がいたことを皆さんはご存知でしょうか。

最後の特攻では、「作戦」のため飛び立った後、敗戦を告げる天皇の「玉音放送」があったにもかかわらず、尊い人の命が犠牲となっています。この事実からも“いのち”を軽んじる軍隊の性格があらわれているといえます。

巷間、戦争にまつわる“勇ましい話”が溢れかえっています。しかし、“真実の証言”などを見聞することによって、私たちは「戦争とは」「いのちとは」ということ今一度考えていきたいと考えています。そのことが、戦争の惨劇と愚かさを次世代に継承し、平和を希求する若者を育てることにつながると確信しています。

戦後70年という節目にあたる今年、連合高知では下記のとおり貴重な証言を扱ったドキュメンタリー作品「遺す、ことのは」（高知さんさんテレビ制作）を上映するとともに、その制作者にこの作品を通じて訴えたかったことなどを語っていただく“親子平和学習会”を企画しました。

是非ともこの機会に、親子そろってご参加を！

1. 開催日時 ･場所 ･呼びかけ対象者
   - □日　時　８月２２日（土）13: 00受付・13: 30～開演
   - □場　所　人権啓発センター
   - □講　師　鍋島康夫さん（ドキュメンタリー制作者）
3. 学習会の概要 約 2時間）
   - ・ 高知さんさんテレビが「特攻」をテーマに放送した３つのドキュメンタリー番組の１つ「遺す、ことのは～特攻の始まりと終わりのこと～」（47分）を上映したうえ、これを制作した鍋島康夫さんに“制作秘話”やこの作品を通じて“伝えたいこと”を語っていただく
4. ドキュメンタリー 遺す、ことのは」の内容
   - ・「遺す、ことのは」の主な内容は、最初の特攻として出撃した編隊の中に高知県出身の若者がいたこと。そして、この若者を知るかつての仲間が彼の人柄と特攻に向かう若者の揺れ動く心情を証言する内容。また、最後の特攻に出撃した編隊の中にも高知県の若者が存在していたこと。さらに、最後の特攻隊が出撃後、敗戦を迎える玉音放送があったにもかかわらず、編隊に帰還命令がなく、そのまま米艦隊に突撃したという事実を埋もれた歴史の中から掘り起こす内容。こうした歴史検証を通じて「戦争とは」「いのちとは」ということを考えるドキュメンタリー番組